

週報

2010.7 ~ 2011.6

国際ロータリー第2730地区
佐土原ロータリークラブ
第1131回 平成22年9月15日(水)

2010~2011年度RTIテーマ



- 9月22日(水)・・・会員卓話「林 厚雄君」
- 9月29日(水)・・・会員卓話「福井 輝文君」
- 10月6日(水)・・・職場訪問「未定」

佐土原ロータリー月間テーマ

【新世代月間】

第1130回の記録 平成22年9月8日

本日のプログラム

1. 点 鐘
2. ロータリーソング
「我らの生業」
3. 四つのテスト
4. 会長の時間
5. 幹事報告
6. 出席報告
7. 委員会報告
8. 会員卓話
「太田 忍君」
9. 点 鐘

会長：藤堂 孝一
 副会長：日高 邦孝
 幹事：村上 實
 副幹事：林 厚雄
 委員：郡司 武俊
 事務局：吉野由里子
 宮崎市佐土原町下田島
 11703-18
 TEL：0985-62-7833
 FAX：0985-62-7877
 例会日：毎週水曜日
 例会場：佐土原商工会 2F
 TEL：0985-73-2567

会長の時間

< 藤堂 孝一 会長 >

皆さんこんにちは、今日は第1130回の例会です。

先週の例会は、お疲れさまでした。ゲスト卓話のプログラムに懇親会、観月会、歓迎会も一緒に実施したので、福井会員・親睦委員長の吉田さん・SAAの中武さんには急な事で大変だったと思いますが、盛会の中終了してありがとうございました。中山前大臣、戸敷市長も、大いに盛り上がり満足されていたようです。

先週の金曜日に事務局の吉野さんから連絡がありました。口蹄疫義援金をいただきました長岡東RCの直前会長の鈴木さんから又義援金10万円を送りますとのことでした。早速携帯でお礼の連絡を取りました。

先週4クラブで合同例会を開催されたそうです、その中で宮崎の口蹄疫義援金の話をされたら100名ほど例会に出席しておられた会員から協賛されて今回10万円送りますとのことでした。心から感謝いたしますと伝えておきました。

9月6日、GSEの打ち合わせに行ってきました、佐土原クラブとして10月19日の観光が計画されています。高鍋、西都の3クラブで対応するという事になっていますので協力をお願いします。

今月は新世代のための月間となっております、96~97年度から従来の「青少年活動月間」の名称から変わって現在の新世代のための月間となりました。年齢は30歳までの若い人すべてを含む新世代の育成を支援するロータリー活動に焦点を当てる月間ということです。クラブと地区は新世代の基本ニーズに着するように要請されています。



幹事報告

< 村上 實君 >

※例会変更届け～無し

※ガバナー補佐～

GSE特別委員会開催のお知らせ～
 日時 9月6日(月) 18:00～
 場所 野崎東病院2階 研修室
 ～GSE予定表全般

※鹿児島地区大会参加登録者～

藤堂 村上 垂水 正岡 岩切 太田 吉田 宮原 中武
 日高 原田 福井 大久保 13名の登録済み 事務局 吉野
 スケジュール詳細につきましては」参加者へ連絡いたします。



出席報告 < 永野 陽子君 >

25名会員(免除2名) 欠席 3名 出席 22名 出席率 95%

9月のセレモニー



※誕生日～藤堂幸一君・永野陽子君・松田真幸君
 ※ご夫人誕生日～岩切純子さん・荒武由美さん
 ※結婚記念月～日高邦孝君
 ♪おめでとうございます♪

ポールハリスフェロー表彰



ポールハリスマルチプルピン受賞
正岡文郁君



初回認定証授与 佐藤高元君



会員卓話

＜岩切 正司君＞



ロータリーのフェロウシップ
 について
 ロータリーの綱領の第4項に、「奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること。」とありますが、この世界的親交は、この場合、フェロウシップは親交と訳されていますが、ロータリー用語集にみられるフェロウシップの訳についてみますと、次のようになっています。

Fellowship Through Service・・・奉仕を通じての親睦
 Friendship Development and Fellowship・・・友情の促進と親睦
 Rotary Fellowship・・・ロータリー親睦活動
 手続要覧には Fellowship・・・親睦 と訳されています。

さて、fellowshipとは何かということですが、以上のように、日本のロータリーはこれを「親睦」と訳しています。しかし、本来の意味は仲間であること、利害・行動などを共にすること、要するに心の通い合う仲間ということ、単に仲良くするだけの意味ではないのです。
ポール・ハリス：ロータリーへの私の道

ポール・ハリスはその著『ロータリーへの私の道』の中で、次のように言っています。
 ≪少年時代にあの谷間で聞くたびにうれしかった「おはよう、ポール」という挨拶が、今では仲間のロータリーアンからの挨拶であり、相手が金持ちであろうと、貧乏であろうと、若い人であろうと老人であろうと、私の耳に気持ちよい音楽として響き続けるのです。シカゴという大都会で集った、この小さなグループの会員にとって、ロータリーは砂漠のオアシスというものでした。

彼らの集会は、ほかのクラブの集会とは違って、もっと親密であり、はるかに友情がこもっていました。面倒な、意味のない制約は振り捨てられ、もったいぶったとりつくろいは入口で断られ、会員はみんな少年に戻るわけです。私にとってクラブの集会に出席することは、あの谷間の家に帰るのと同じことだったのです。つまり、ロータリー・クラブの発生のもとというのは、仲間を求めて呼び合う心です。

従って、フェロウシップは友人関係においてフレンドシップより更に強い絆で結ばれた仲間同士というもので、戦友のように仲間意識の強いものです。

フェロウシップこそロータリー

森パストガバナーは、フェロウシップこそロータリーと言っており、人材の森で森林浴をするようなもので、ロータリーの森に分け入ると、それぞれのお人柄の香りが発散されており、その相乗効果の中で人格が知らず知らずの間に陶冶されると言っております。そして、ゴルフや観劇や宴会などで親睦を図ることはフェロウシップのほんの入口に過ぎず、深い心の絆で結ばれ、認め合い許しあって一つのことを成就させたとき、戦友のような生涯忘れられない友情が育まれます。そういうフェロウシップこそロータリーの核心であるとしています。(森 三郎著：『私のロータリー』より) ～ 以下省略 ～

四つのテスト

「言行はこれに照らしてから」

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

出席状況 第1125回
平成22年8月4日(水)

会 員 数	26名
(免除会員 2名)	
出 席 者 数	22名
欠 席 者 数	4名
出 席 率	91.0%
メークアップ	0名
修正出席率	91.0%

MEMO

例会中は携帯電話の電源を切るか
マナーモードにしてください・・・

.....

.....

.....

.....